

バリ島の高校生ボランティアも参加して植樹祭

国際協力機構（JICA）は、9月9日に多機能フィルター株式会社と「インドネシア国防災・環境保全及び環境再生技術の普及・実証事業」にかかる業務委託契約を締結しました。インドネシア国では防災と環境保全並びに環境再生のための有効な技術開発と普及が求められています。同国のバリ島北部に位置するバトゥール火山周辺では過去の大噴火による土壌荒廃が進んでおり、地下水脈の枯渇につながる懸念もあるため、土壌流出防止が緊急の課題となっています。

既に現地で事業を開始している多機能フィルター社は、12月8日にカウンターパートのウダヤナ大学等との共催による植樹祭をトヤ・ブンカ村のバトゥール山周辺の荒廃地で開催しました。この植樹祭には地元の高校生115人、ウダヤナ大学から60人、バンリ県知事ほか県職員50人、現地NGOバリ森会50人、地元住民35人、在デンパサール日本総領事館、山口大学ら総勢324人が参加し、盛大に行われました。

参加者の中には、多機能フィルター社が昨年度行ったニーズ調査実施の際に協力してくれた子供たちや、家族と一緒に小さな子供なども見られました。植樹祭ではウダヤナ大学による環境に関するお話の他にクイズ大会なども行われました。植樹には同社の種バッグが用いられました。二人一組になり、自分たちでジャックフルーツ等地域の樹木の種や土を入れた種バッグ作りを行いました。この種バッグは、種子、植生基盤材・菌根菌を内蔵する特殊植生袋で痩せ地や荒廃地などでの樹林化を可能とします。およそ3ヶ月後には、このバッグの中の種が小さな苗木となって、荒廃地にしっかりと根を張っている姿が見られる予定です。これらの活動では緑化だけでなく、地元住民や高校生に環境保護の重要性を考えてもらう教育の一環となることも期待されています。

この植樹祭で植えられた種バッグの今後の様子は、ウダヤナ大学の環境活動グループ及び多機能フィルター社による追跡調査が行われます。これらの調査で得られたデータはウダヤナ大学に報告されるとともに、今回の実証事業における製品開発や防災・環境再生の研究へ活用します。また、追跡調査で観測された木々の成長の様子は、高校生たちに環境保護や防災への更なる関心を持ってもらう機会となるよう、植樹祭に参加した高校にも定期的にお知らせする予定です。



今後、多機能フィルター社は、現地素材を用いた製品開発や様々な荒廃地での適応可能性試験を実施し、インドネシアにおける同分野での技術向上および本事業後のビジネス展開を見込んだ顧客の多様化も図っていきます。